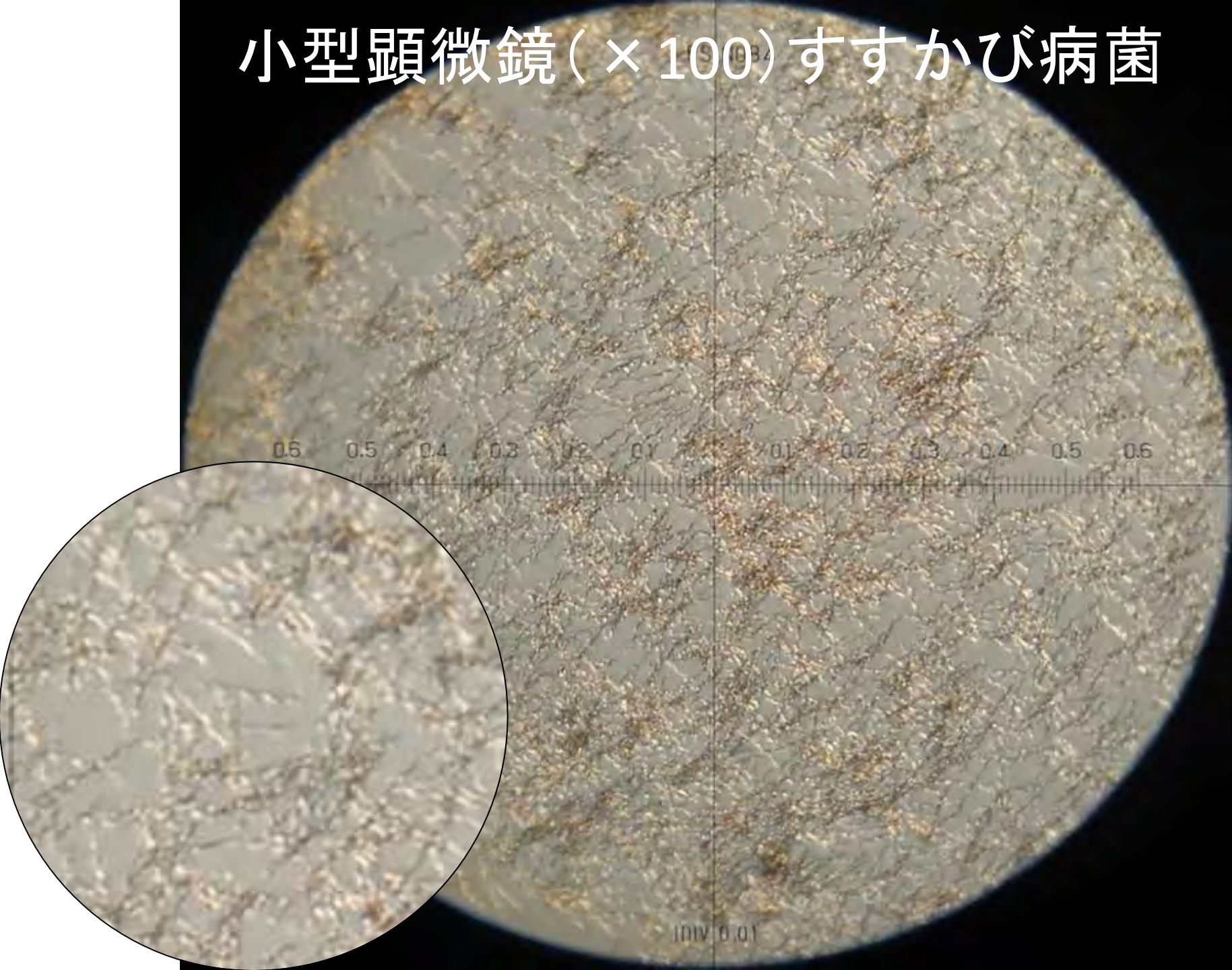


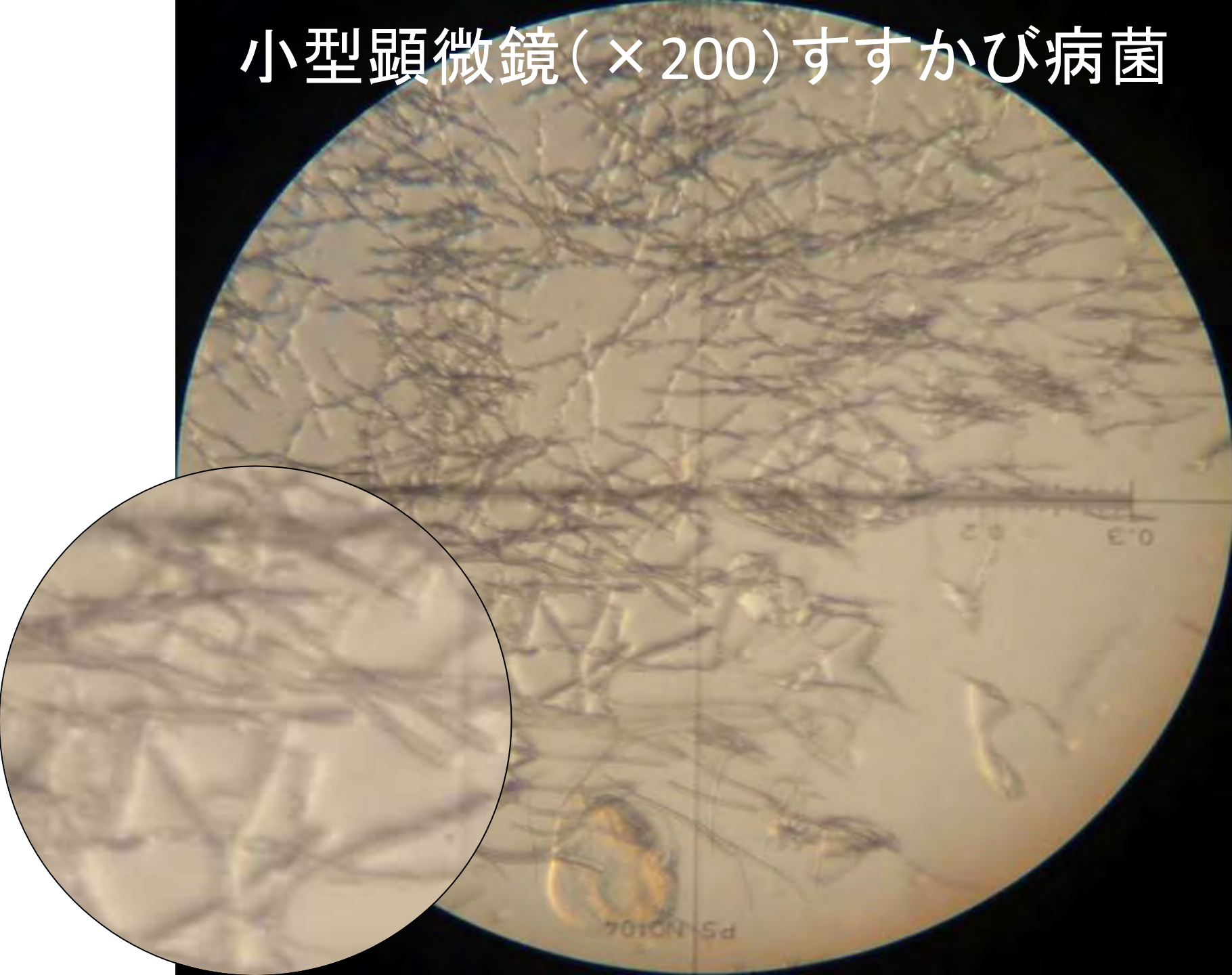
テープを張った反対から小型顕微鏡で観察



小型顕微鏡(×100)すすかび病菌



小型顕微鏡(×200)すすかび病菌

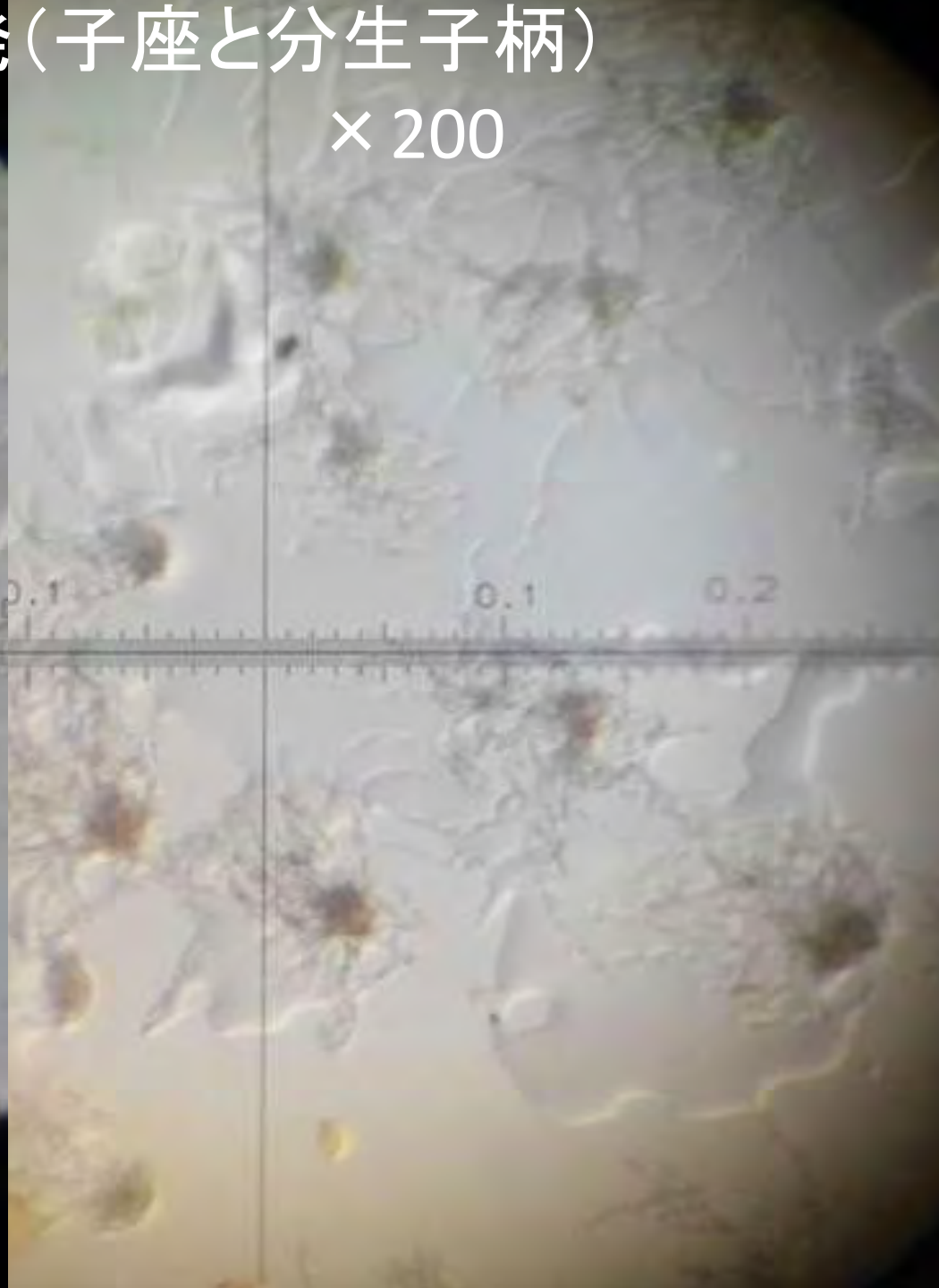


すすかび病菌初発(子座と分生子柄)

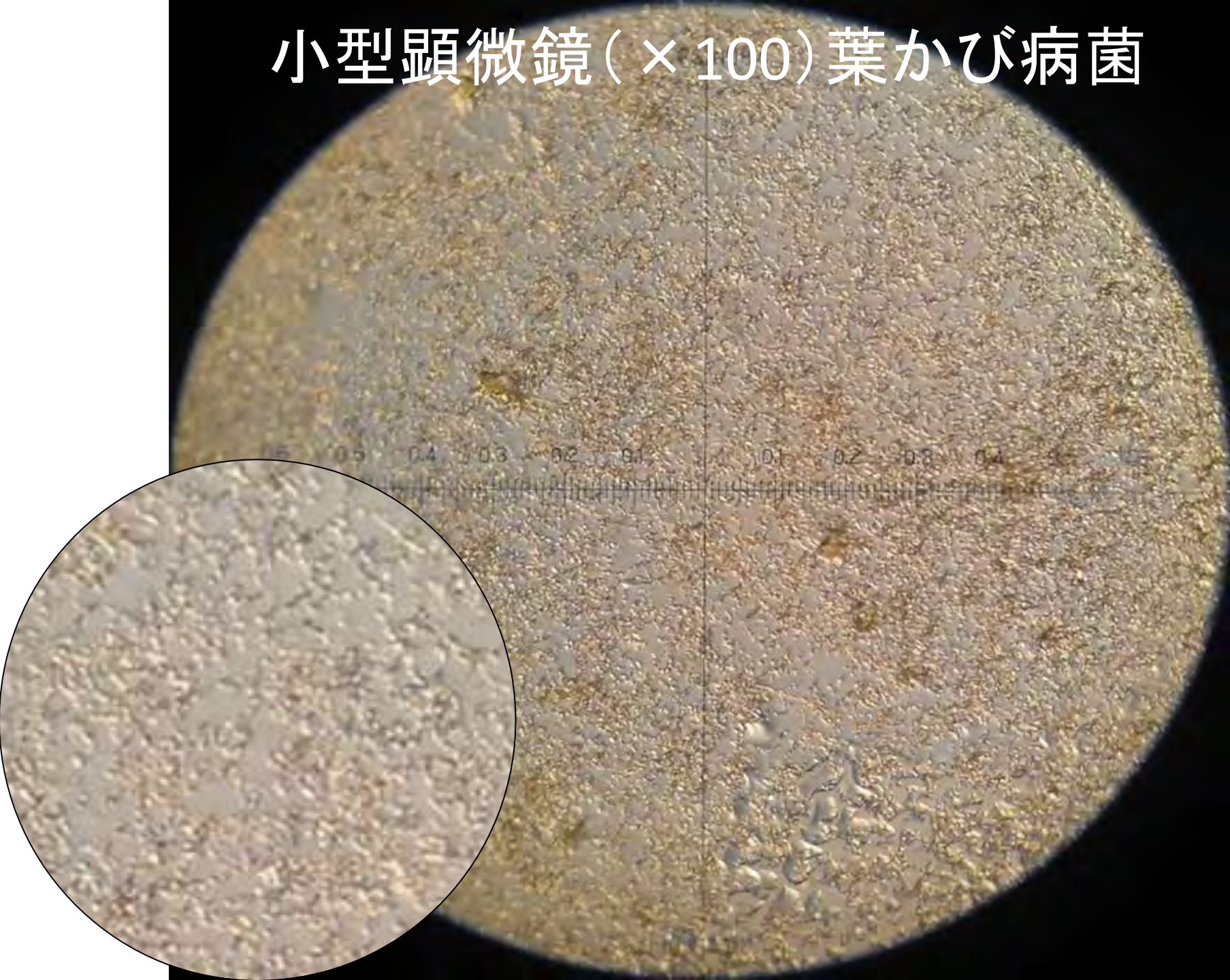
× 100



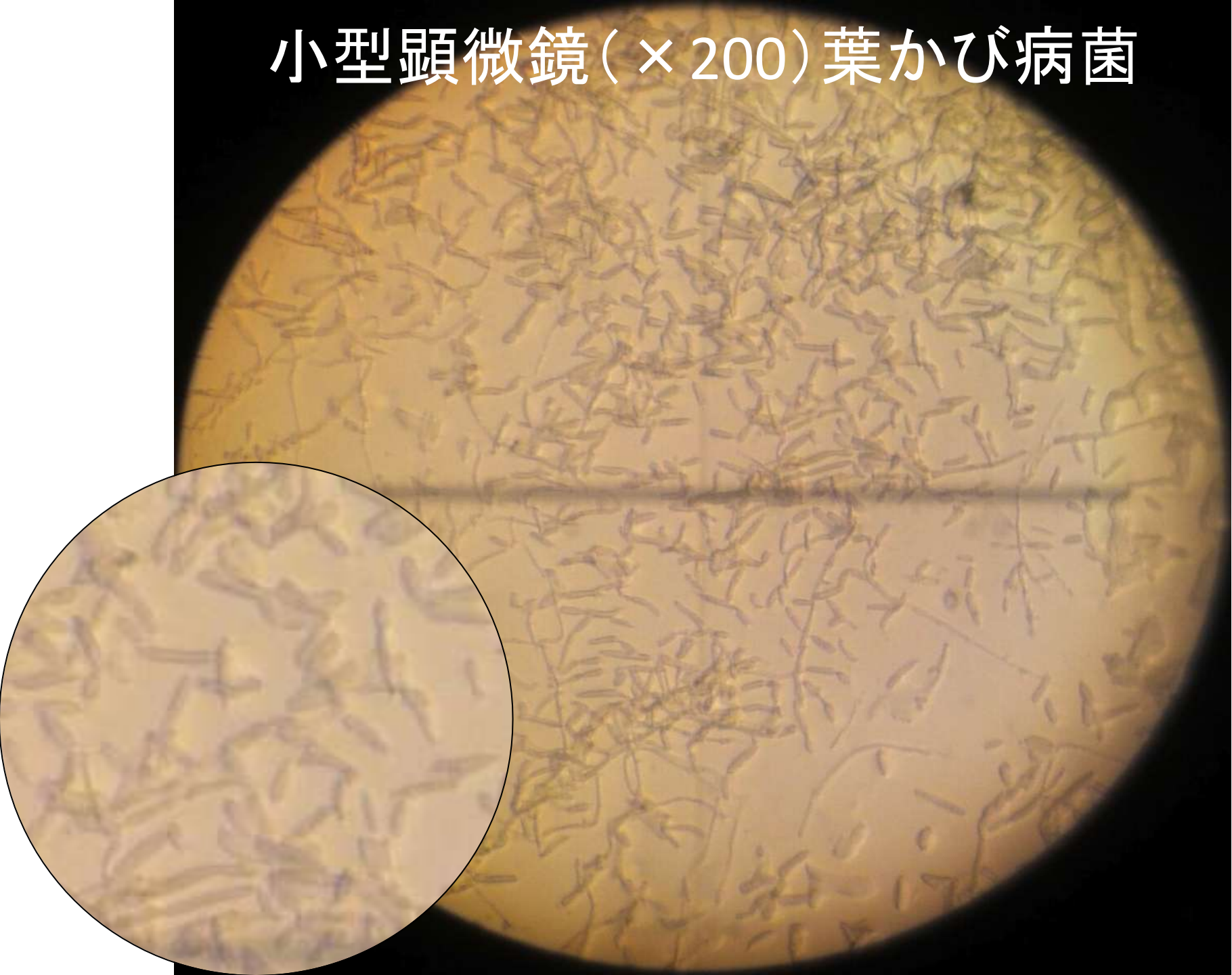
× 200



小型顕微鏡(×100)葉かび病菌



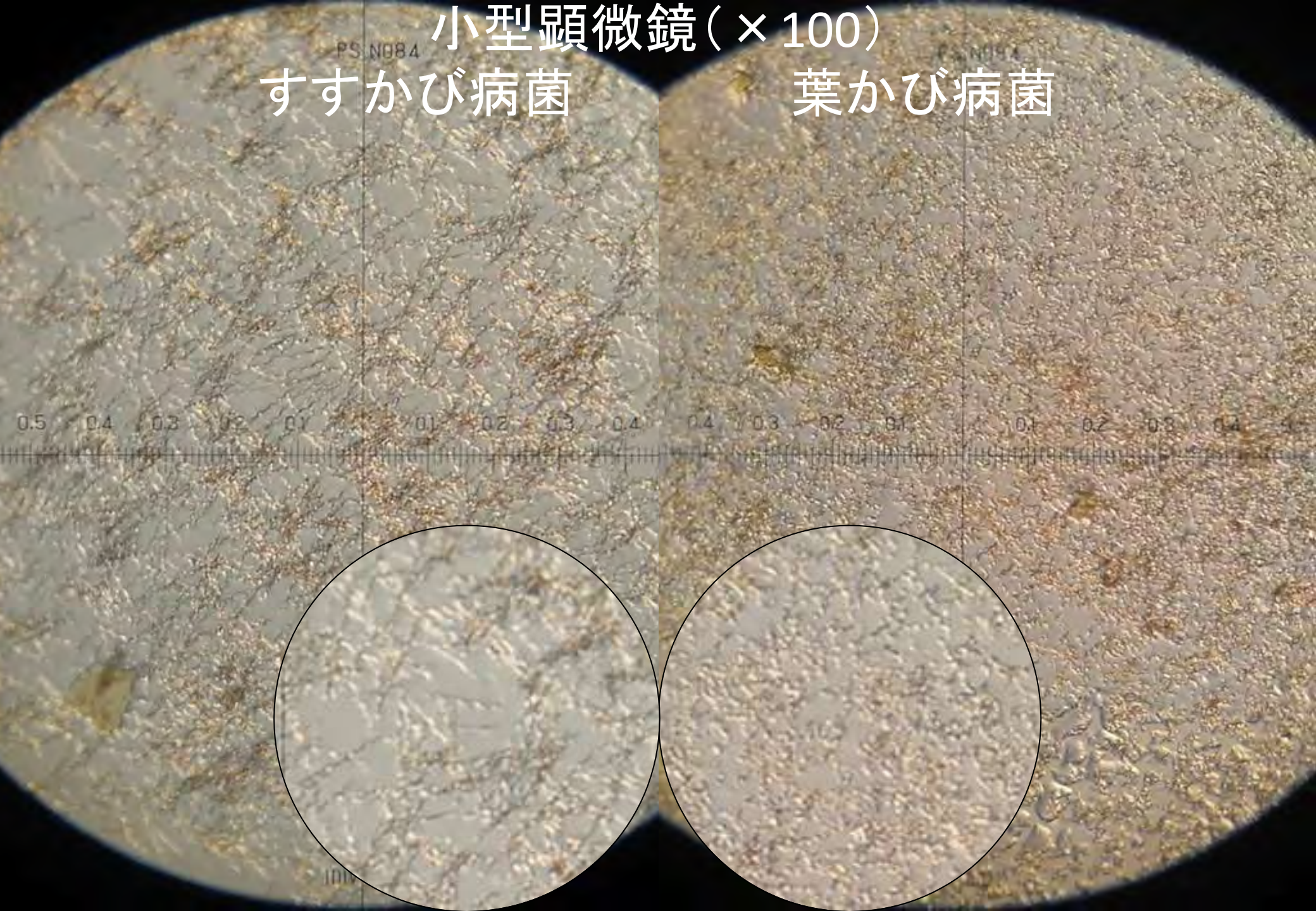
小型顕微鏡(×200)葉かび病菌



小型顕微鏡(×100)

すすかび病菌

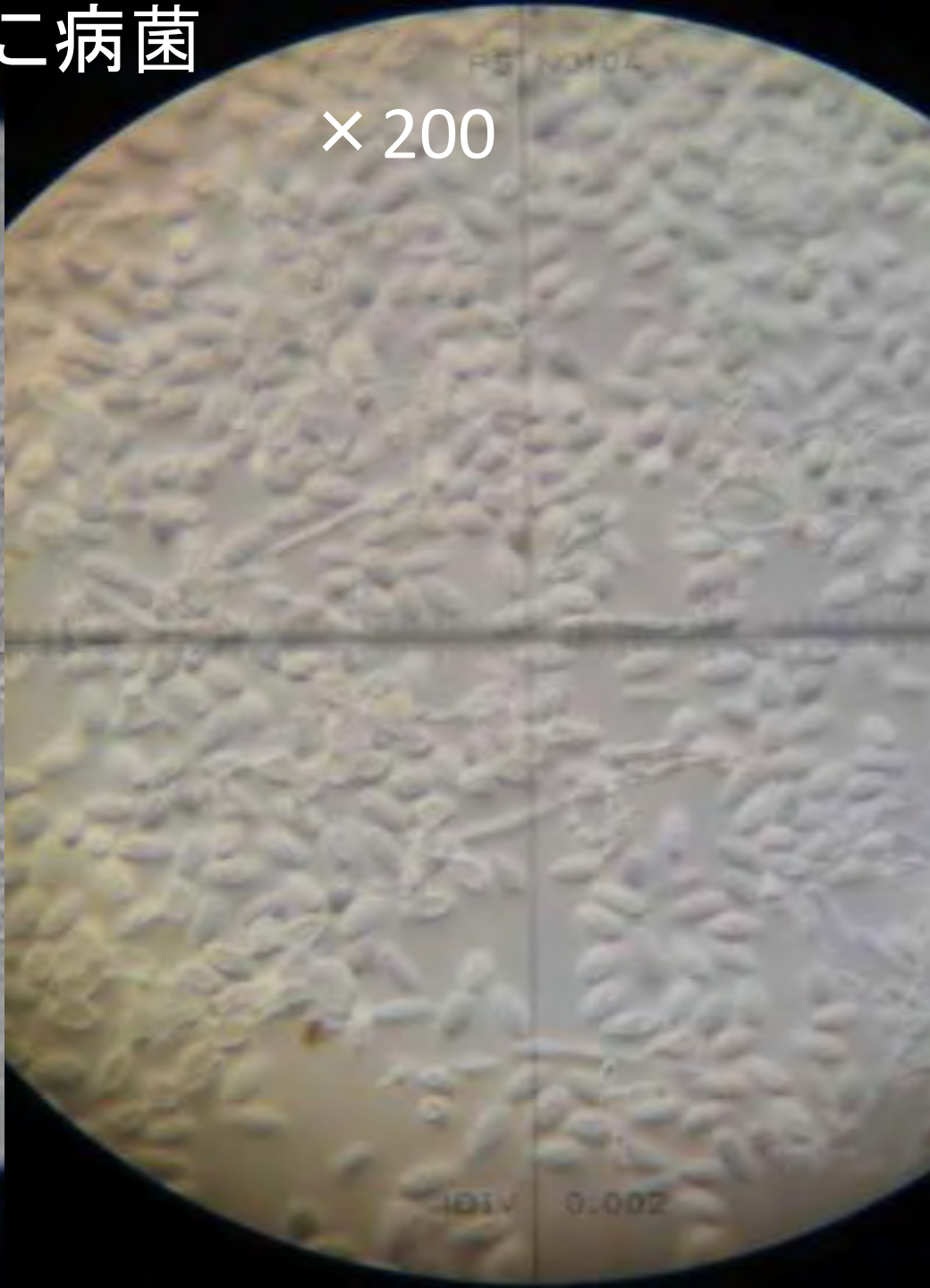
葉かび病菌



トマトうどんこ病



うどんに病菌



イチゴナミハダニ



発生予察事業の調査で活用



現場での活用

- 現地調査から持ち帰って確認していたことが、その場で済ますことができる可能性がある。
 - 観察中に顕微鏡で確認するのではなく、発病株から病斑を5小葉程度集め、観察後にそのほ場で検鏡してはどうか。
- 葉かび病抵抗性品種に発病した斑点性病害が、すすかび病か葉かび病か診断するのに、小型顕微鏡は大変便利である。
- トマトサビダニなど虫害でも活用できる。



イチゴのハダニを観察

現場での活用事例

トマト葉かび病抵抗性品種に感染する 葉かび病菌新レースの早期発見対策

新レース 早期発見 体制の構築

- 初動対応に向けて、関係機関（JA、普及センター、防除所、研究所）で対策会議の実施
- 葉かび病発生実態調査の実施
 - ほ場で小型顕微鏡を用いて即診断
 - 持ち込まれたサンプルを小型顕微鏡を用いて手分けして診断
- レース9の情報が速やかに収集される体制を構築するため、パンフレットの配布

症状発見時 の対応

- 葉かび病の症状を認めた場合は、小型顕微鏡を用いて速やかに診断を実施
- 診断結果を関係機関で情報共有

新レースで あった場合の 初動対応

- 葉かび病と診断された場合は、発病葉を葉かきし、ビニール袋に密封廃棄
- その後、ペンチオピラドを散布、さらに1週間後に、TPN、キャプタン、イミノクタジンアルベシル酸塩のいずれかを散布

トマト葉かび病抵抗性品種でも 葉かび病が発生する恐れがあります！！

農家に配布されたパンフレット

1. 抵抗性品種における発生状況

トマト栽培において葉かび病は重要な病害であり、産地では葉かび病抵抗性品種の導入が進んでいます。

しかし、近年では、抵抗性品種における葉かび病の発生が報告されています。三重県では平成21年にミニトマトで初めて確認されました。他県でも特殊報が発表されており、抵抗性品種における葉かび病の発生が全国的に問題となっています。

2. 対策

抵抗性品種を侵す葉かび病菌が広がってしまうと、抵抗性品種を使う意味がなくなってしまいます。また、葉かび病はすすかび病と見分けがつけにくいので、すすかび病だと思っていると、問題の葉かび病菌を産地全体に広げてしまう原因になってしまうかもしれません。

そのため、以下のような対策が必要です。

<具体的な対策>

- すすかび病対策も含めた慣行防除の励行で発生予防を行う。
- 抵抗性品種で葉かび病の発生を少しでも確認した場合、葉かび病の防除を徹底する。

葉かび病とすすかび病の病徴はよく似ている。
肉眼では見分けがつかない。

～葉かび病抵抗性品種～

CFハウス桃太郎、CF桃太郎はるか、
桃太郎グランデ、桃太郎プレミアム、
みそら64、りんか409など・・・。

※園場で疑わしい病徴を見つけたら、JA、普及センター、
病害虫防除所などの関係機関へ連絡し、ご相談下さい。



三重県病害虫防除所、三重県中央農業改良普及センター、三重県農業研究所
平成24年3月作成

トマトすすかび病に防除効果のあるTPNや、マンゼブは、トマト葉かび病にも効果が期待できる。

葉かび病菌レース9が顕在化する前の予防対策が大事。

抵抗性遺伝子だけに頼ると、
新レースの発生！

殺菌剤だけに頼ると、**耐性菌の発生！**

両者を組み合わせることで、
問題の発生を遅らせ、重傷化を避けることが重要。

最後に

都道府県によって主要作物は異なり、また重要病害虫も異なる。

地域によって、調査の重み（調査時間、必要な精度）は異なってくる。

現場の農家に役立つ情報を、今後も発信するためには、どの作物の、何の病害虫を、どこの調査地点で調べるかの選択が、地域ニーズと一致することが求められる。

そのための1手段として、小型顕微鏡の活用が参考になれば幸いである。